

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 一般国道246号 厚木秦野道路 <small>あつぎはだの</small>	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 関東地方整備局																																								
起終点 厚木区間 自：神奈川県厚木市中依知 至：神奈川県厚木市飯山 伊勢原区間 自：神奈川県伊勢原市西富岡 至：神奈川県伊勢原市善波	延長 厚木区間 3.6km 伊勢原区間 4.8km																																									
事業概要 一般国道246号は、東京都千代田区を起点として神奈川県内を横断し静岡県沼津市に至る、延長約120kmの主要幹線道路である。 厚木区間は神奈川県厚木市中依知から厚木市飯山までの延長約3.6km、伊勢原区間は神奈川県伊勢原市西富岡から伊勢原市善波までの延長約4.8kmの4車線の道路事業で、圏央道（さがみ縦貫道路）・新東名高速道路とのアクセス強化（広域ネットワーク形成）、国道246号の交通混雑の緩和、国道246号の交通安全性の向上、沿線の経済活動支援及び物流の効率化を目的に計画された事業である。																																										
厚木：H13年度事業化 伊勢原：H10年度事業化	H8年度都市計画決定	H13年度用地着手 H26年度工事着手																																								
全体事業費	約900億円	事業進捗率 約50% <small>（令和3年3月末時点）</small> 供用済延長 0km																																								
計画交通量 10,200～11,800台/日																																										
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C</td> <td style="width: 20%;">(事業全体) 1.2 (1.2)</td> <td style="width: 20%;">総費用</td> <td style="width: 20%;">(残事業)/ (事業全体) 614/1,284億円</td> <td style="width: 20%;">総便益</td> <td style="width: 20%;">(残事業)/ (事業全体) 1,493/1,493億円</td> <td style="width: 20%;">基準年</td> <td style="width: 20%;">令和3年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(残事業) 2.4 (3.2)</td> <td>事業費</td> <td>537/1,207億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>1,286/1,286億円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>維持管理費</td> <td>77/77億円</td> <td>走行経費減少便益</td> <td>169/169億円</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>交通事故減少便益</td> <td>38/38億円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	B/C	(事業全体) 1.2 (1.2)	総費用	(残事業)/ (事業全体) 614/1,284億円	総便益	(残事業)/ (事業全体) 1,493/1,493億円	基準年	令和3年		(残事業) 2.4 (3.2)	事業費	537/1,207億円	走行時間短縮便益	1,286/1,286億円					維持管理費	77/77億円	走行経費減少便益	169/169億円							交通事故減少便益	38/38億円			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">【事業全体】</td> <td style="width: 50%;">【残事業】</td> </tr> <tr> <td>交通量：B/C=0.94～1.4（交通量±10%）</td> <td>交通量：B/C=2.0～2.9（交通量±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%）</td> <td>事業費：B/C=2.2～2.7（事業費±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）</td> <td>事業期間：B/C=2.3～2.5（事業期間±20%）</td> </tr> </table>	【事業全体】	【残事業】	交通量：B/C=0.94～1.4（交通量±10%）	交通量：B/C=2.0～2.9（交通量±10%）	事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%）	事業費：B/C=2.2～2.7（事業費±10%）	事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）	事業期間：B/C=2.3～2.5（事業期間±20%）
B/C	(事業全体) 1.2 (1.2)	総費用	(残事業)/ (事業全体) 614/1,284億円	総便益	(残事業)/ (事業全体) 1,493/1,493億円	基準年	令和3年																																			
	(残事業) 2.4 (3.2)	事業費	537/1,207億円	走行時間短縮便益	1,286/1,286億円																																					
		維持管理費	77/77億円	走行経費減少便益	169/169億円																																					
				交通事故減少便益	38/38億円																																					
【事業全体】	【残事業】																																									
交通量：B/C=0.94～1.4（交通量±10%）	交通量：B/C=2.0～2.9（交通量±10%）																																									
事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%）	事業費：B/C=2.2～2.7（事業費±10%）																																									
事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）	事業期間：B/C=2.3～2.5（事業期間±20%）																																									
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=0.94～1.4（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）																																										
事業の効果等 ①沿線企業活動の支援 ・厚木秦野道路沿線には国道246号沿線を中心に多くの工業団地が立地。しかしながら市街地混雑により高速アクセス性が低下している状況。厚木秦野道路整備による圏央道とのアクセス強化、中部近畿方面との広域ネットワーク形成により、企業活動を支援。 ②企業誘致の支援 ・厚木秦野道路沿線では新規工場立地が盛んで、立地の受け皿として厚木市、伊勢原市では土地区画整理を実施中。厚木秦野道路整備による圏央道とのアクセス強化、中部近畿方面との広域ネットワーク形成により、企業誘致を支援。 ③観光活性化の支援 ・厚木秦野道路周辺は宮ヶ瀬や大山ほか、観光資源が豊富。厚木秦野道路の整備により沿線から観光地へのアクセスが向上、観光活性化を支援。 ④沿線地域の日常生活の利便性向上 ・厚木秦野道路沿線は自動車交通需要の高い地域であり、国道246号では2車線区間を中心に、朝夕の通勤時間帯だけでなく日中も混雑。厚木秦野道路の整備により、沿線市町間の通勤時間短縮や高速アクセス向上など利便性向上の期待。 ⑤救急活動の支援 ・厚木秦野道路の整備による第三次医療施設へのアクセス向上により、迅速な救急医療活動を支援。 ⑥沿線地域の防災力向上への寄与 ・新東名高速道路の厚木南IC付近の「神奈川県総合防災センター」は、災害時には他県や国からの応急活動要因の集結、物資の受け入れ、搬送車両の集結拠点となる。厚木秦野道路の整備により、「神奈川県総合防災センター」から秦野市役所まで、東名高速道路の代替路が形成され、沿線地域の防災力向上が期待される。																																										

関係する地方公共団体等の意見

神奈川県知事の意見

厚木秦野道路は、新東名高速道路や圏央道等と一体となって、広域的な幹線道路網を形成し、国道246号の混雑緩和はもとより、地域の活性化や災害対応力の強化などに寄与する重要な路線であり、整備に寄せられる県民や企業、沿線市町村からの期待も大変大きい。

沿線では新たなまちづくりなどが進められ、新東名高速道路や圏央道が順次供用される中、本路線の整備に対する関心や早期の全線開通を求める声が増しに大きくなってきている。

県は、円滑な事業進捗に向け、引き続き、沿線市町村とともに、地元調整などの必要な事業協力を展開していくので、県や沿線市町村と積極的に連携し、コスト縮減に努めつつ、事業化区間の早期整備と未事業化区間の早期事業化を図りたい。

事業評価監視委員会の意見

事業の継続を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

厚木秦野道路沿線は新規工場立地が盛んで、立地の受け皿として厚木市、伊勢原市では土地区画整理を実施中。また令和2年3月には新東名高速道路の伊勢原JCT～伊勢原大山IC間が開通するなど高規格幹線道路の整備が進んでいる。それ以外の事業を巡る社会経済情勢等に大きな変化はみられない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・厚木区間（延長3.6km）は、圏央道の圏央厚木ICと国道129号間の約0.6kmで、圏央道（平成25年3月に開通）と一体で用地取得、埋蔵文化財調査を実施済。厚木区間の用地取得率（面積ベース）は約56%（令和3年3月末）。現在は設計協議、環境調査を実施中。また、令和2年度から本格的に埋蔵文化財調査に着手。
- ・伊勢原区間（延長4.8km）は、令和元年度に開通した新東名高速道路（伊勢原大山IC）の事業進捗に併せて、伊勢原大山IC周辺の用地取得を重点的に推進し、用地取得率は約92%（令和3年3月末）。平成26年度から工事着手。
- ・今後は、用地取得を推進し、引き続き、地元協議を進めて効率的に事業促進を図る。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・今回、埋蔵文化財調査面積及び単価の増加、用地幅杭設計の完了に伴い事業面積が増加。引き続き早期完成を目指し、用地取得、調査、工事を推進。

施設の構造や工法の変更等

- ・盛土構造区間の地盤状況や交差施設の重要度に着目し、道路構造の見直しにより事業費の縮減ならびに周辺環境変化の抑制を図ることを検討。

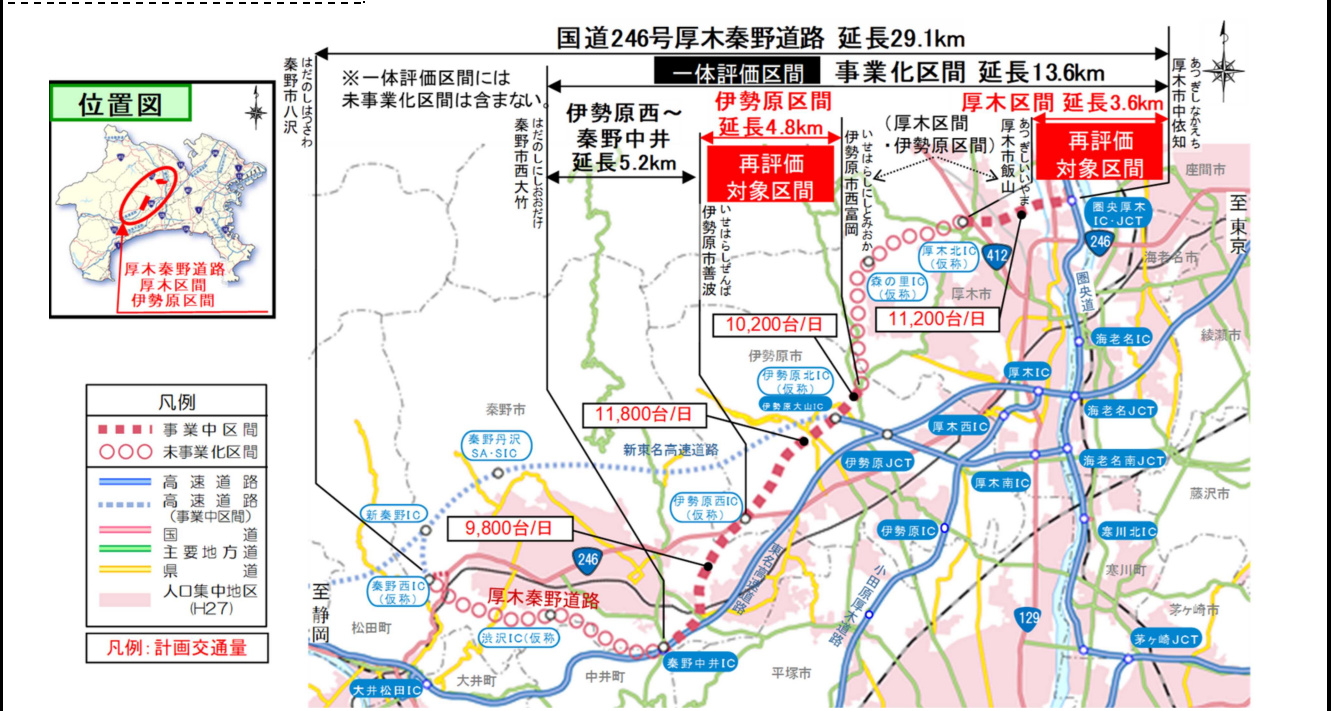
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。